

第8回つくば市未来構想等審議会

専門部会A 令和元年(2019年)10月18日(金)
午後1時30分～5時00分
庁議室

専門部会B 令和元年(2019年)10月21日(月)
午後1時30分～5時00分
庁議室

次 第

【専門部会】

- 1 開会
- 2 報告
 - (1) 第7回審議会の開催報告
 - (2) 未来構想キャラバンのスケジュールと開催報告
- 3 議事
 - (1) 戦略プランの策定状況について
- 4 閉会

配付資料

報告1	第7回つくば市未来構想等審議会 委員意見と対応方針	・・・P3
報告2	未来構想キャラバンのスケジュールと開催報告	・・・P39
資料1	未来構想・戦略プランの全体構成(案)【継続審議のため非公開】	・・・P50
資料2	基本施策・個別施策のストーリー化 【継続審議のため非公開】	・・・P52
資料3	つくば市戦略プランの骨子(案)と基本施策と個別施策	別冊 【継続審議のため非公開】

【専門部会のタイムスケジュール】

1日目 10/18 (金) 専門部会A(包摂都市・人材都市)	13:30~ 13:40	第7回審議会の開催報告		
	13:40~ 13:50	未来構想キャラバンの開催報告		
	【以降、戦略プランの策定状況についての議論】			
	13:50~ 14:10	1班	資料3 P41- 50	Ⅱ-1 地域での支え合いやつながりの推進と医療、介護、福祉の充実したまちを目指す
	14:10~ 14:30	2班	P51- 54	Ⅱ-2 人生100年!生涯いきいきと暮らせるまちを目指す
	14:30~ 14:50	3班	P55- 59	Ⅱ-3 地域や市民一人一人の備えを後押しするまち
	14:50~ 15:10	5班	P67- 70	Ⅱ-5 身近な自然を守り、楽しみ、持続させていくまち
	15:10~ 15:20	休憩		
	15:20~ 15:40	6班	P71- 75	Ⅲ-1 子どもも親も楽しく育つ環境をつくる
	15:40~ 16:00	7班	P76- 81	Ⅲ-2 じぶんの「好き」が見つかる環境をつくる
	2日目 10/21 (月) 専門部会B(共創都市・科学技術都市)	13:30~ 13:40	第7回審議会の開催報告	
13:40~ 13:50		未来構想キャラバンの開催報告		
【以降、戦略プランの策定状況についての議論】				
13:50~ 14:10		9班	資料3 P85- 91	Ⅳ-1 知識集約による社会イノベーションが生まれるまち Ⅳ-2 地元で頑張る組織や人が成長し続けるまち
14:10~ 14:30		10班	P92- 100	Ⅳ-3 まちの進化のために新技術等の導入を促進する
14:30~ 14:50		11班	P101- 107	Ⅳ-4 地球に優しく「ごみ」のない低炭素で循環型のまちをつくる
14:50~ 15:10		12班	P14- 18	I-1 市民共創によるまちづくりを推進する
15:10~ 15:20		休憩		
15:20~ 15:40		13班	P19- 31	I-2 資源を活用し、魅力あふれるまちをつくる
15:40~ 16:00		14班	P32- 37	I-3 つくばならではの街並みや体験に出会えるまちの創出
16:00~ 16:20		15班	P38- 40	I-4 つくば市のPRの推進

第7回つくば市未来構想等審議会 専門部会の議事要旨（班順）

日時 : 令和元年8月6日（火）、7日（水）

場所 : つくば市役所6階 全員協議会室1、2

I-1 市民共創によるまちづくりを推進する（12班）：専門部会B（1日目）

No.	発言者	意見内容	回答 ■事務局 □その他	対応方針
12-1	永井委員	区会、ボランティア団体、NPOなどの活動支援についてわかりやすく戦略プランで記載していただきたい。 若い世代の区会の加入促進について検討していただきたい。	□重点戦略1について、つくば市の地域団体への支援についてわかりやすく記載することを検討したいと思う。重点戦略2について、若い世代の加入促進に関する記述を検討したいと思う。(WT) □若い世代は生活スタイルが変わってきているため、区会の活動に理解の上加入していただくことが課題であると認識している。(WT)	具体的な活動支援などの事業については、個別プロジェクトで記載する。
12-2	山海委員	現時点でつくば市の中で地域団体を支援する条件、ルールなどは明確に存在するのか。市民共創という点では重点戦略2はとても良い試みであると思う。	□市民活動支援について、現状各担当課で対応している状況である。市民活動支援に関する記述を上手に表現できたらと思う。(WT)	新たな個別プロジェクトとして、支援事業の取りまとめを検討する。
12-3	宇津野委員	かつて、区会はつくば市の中でも重要なポジションであったが、現時点では任意で加入するような形態になっているため、区会の加入率を高く設定すると達成のハードルが高く感じる。	—	新たな加入促進方策の検討や区会のあり方について検討する。
12-4	桜井委員	市民活動と科学技術をどのようにして関わらせていくかという点に期待をしている。	—	

I-1 市民共創によるまちづくりを推進する（12班）：専門部会B（2日目）

No.	発言者	意見内容	回答 ■事務局 □その他	対応方針
12-5	永井委員	子供会にも入らない方も増えているなか、区会に代わるものはあるのか。	<input type="checkbox"/> 区会のような組織がないと、次の代の居住地の選択の際にアンバランスがでてくるのではないかという気がする。（高谷委員） <input type="checkbox"/> 区会については、両面で政策をうつべきという印象がある。一つは、従来の区会組織は必要で、今年度、回覧板をメールで配信する取り組みを開始した。もう一つは、区会サミット、区長サミットにて、好事例を横展開するとともに、区会以外で行政が協働していくべき組織についても検討していくことである。（副市長）	主要プロジェクトの中で、区会に対する取り組みを記載する。
12-6	永井委員	市民共創については、進め方が従来のようなスタイルになっている。職員との間で、どんどん入っていくということを受け止めてもらえるといい。市民とともにやるということがわかるといい。	<input type="checkbox"/> 施策としては今後5年かけてしっかり市民参加を推進し、6年目からはこれを「促進」することとして発展させていくことを考えている。（WT）	市民参加の推進の個別プロジェクトで記載する。
12-7	西委員	区会の話に戻るが、若い人の取り組み方や大学生が市民としてとりいれられない問題がある。市としても、大学生や若い人も市政に参加できるということも、新しい市民共創もある。	—	区会に限らず、若い世代が市政参加する機会があることを発信していくことを記載する。
12-8	永井委員	SDGsパートナーズとは。	<input type="checkbox"/> 企業やNPO等の団体が30団体・120名くらいで講座をうけてもらうもので、筑波大の協力も得ながら、課題発見と科学技術による解決について年2～3回ワークショップを行っている。	記載の仕方を修正する。

I-2 資源を活用し、魅力あふれるまちをつくる（13班）：専門部会B（2日目）

No.	発言者	意見内容	回答 ■事務局 □その他	対応方針
13-1	小玉 部 会長	観光振興について、重点戦略の指標が市民意識調査であるようだが、観光について市民が判断できるのか。その辺りに関する議論はあったか。	□指標として「観光入り込み客数」も考えていたが設定が難しい。(WT)	観光分野の指標については、「観光客入込数」を設定した。目標値については、引き続き検討中する。
13-2	永井 委員	ここにある施策を進めることができればつくばがより魅力的なまちになるということだと理解するが、科学技術などが分かれているため、少し物足りなり気がする。	—	—
13-3	小玉 部 会長	魅力については住んでいる人は分からないこともある。外の人から見たアンケートについて考えるかどうか。指標に代表されるように何がボトルネックになるかが見えてくる。	—	市外の方を対象にしたアンケート調査については、民間が実施している既存のものがあるため、「特産品の認知度等」については、この調査結果を指標にする。
13-4	宇津野 委員	指標については「市民意識調査」のみで物足りない。力点をおいている取り組みについて具体的な数値でなくともよいので再度検討するとよい。 文化芸術の推進があるが、財団と文化芸術課と一緒に考えているが、最近では、周辺地区のお年寄り等にも楽しんでいただくことを目的に実施しており、それらの取組を具体的に見せることがよいと感じた。	—	指標の設定については、数値化が可能で施策の成果がより具体的に評価できるものを設定した。 具体的な取組みについては、主要プロジェクトの中で示した。

No.	発言者	意見内容	回答 ■事務局 □その他	対応方針
13-5	西委員	17ページ・18ページを見比べているが、非常に幅が広い。3 班の空き地・空き家と、いま紹介いただいた空き家の部分についての相互の関連性をチェックする必要がある。	<p>■防犯防災と安全管理の 2 つの切り口で見ている。(事務局)</p> <p>□最終的には整合を確認して作り上げる。(部長)</p>	
13-6	林委員	指標については、全体的にアンケートを活用することになっていて残念な印象。数値化できるものは数値で示すのが良い。観光客数などは検討したけど載せないこととしたのかなど、経緯を教えてください。	<p>□観光客数については、指標を大幅に超えており、指標として設定することを控えた。(WT)</p> <p>□観光施策の努力が報われる指標になっているのかが分からない。(小玉部会長)</p> <p>□観光客数やイベント開催数などをみていけるとよい。同様に、スポーツ施設の利用者数の動向や老朽化施設の解消などが増えたなど考えていただきたい。(林委員)</p>	指標の設定については、各分野によって、数値化が可能で施策の成果がより具体的に評価できるものを設定した。
13-7	市川委員	つくば市にある資源を生かしてということ、いろいろな意見がでていますが、つくば市がもっている大きな資源には“人”がある。国際 WS は、色々な都市で誘致合戦をしている。県内では、つくばではできるが水戸ではできないなど、優位性があるので、どこかに加えていただき、例えば「日本一(つくばならではの) WS を開催することを目指す」なども反映してもらえないか。	<p>□つくば国際会議場は、日本でも 5 本指に入る会議場である。これを活用するための方策など、観光政策の方でも検討中であるが、市として何ができるのかをビジョンとして考えられるとよい。(小玉部会長)</p> <p>□KPI などについて議論しているがアクションにつながる KPI についても考えていく必要があることを今後考えていきたい。(副市長)</p>	つくば市の資源をいかした具体的な取組みについては、主要プロジェクトの中で示すとともに、つくばならではの WS の実施については、各プロジェクトに紐付く個別事業の中で検討していく。

I-3 つくばならではの街並みや体験に出会えるまちの創出(14班): 専門部会B(2日目)

No.	発言者	意見内容	回答 ■事務局 □その他	対応方針
14-1	市川 委員	「緑豊かでイノベーションを創出する研究学園地区の推進」における“研究学園地区”とは、どの範囲か。	□研究学園地区は、筑波研究学園都市建設によってつくられた地区を示している。(WT)	—
14-2	小玉部 会長	掲げている戦略に対する指標がミスマッチしているものがあるので、別の指標も検討するべきである。	□現在、仮置きになっているものもあるので再度検討したい。(WT)	修正した。
14-3	宇津野 委員	91ページの「豊かな自然や農村集落の持続」については、レクリエーションゾーンの充実なども考えていただけるとよい。	□主要プロジェクトとセットで、今後検討したい。(WT)	重点戦略4のプロジェクトで対応する。
14-4	林委員	18ページの2030年の未来像の中に「世界中から人を惹きつける」などの記載があるため、市民以外の概念もあわせて取り組むことがあるほうがよい。	□次の13班でも観光について触れているので、その際にもご意見いただければと思う。(副市長) □体験に出会えるまちとある。例えば、祭りもあるかもしれない、もうちょっとつめてもらえるとよい。(小玉部会長)	14班での対応は考えていない。
14-5	永井 委員	“緑”だけでなく、建造物やペDESTリアンデッキについてもどこかででてくるのか。素晴らしい建造物もあるので、老朽化対策など要素としてアピールしてほしい。	—	プロジェクトや基本施策ではなく本文、個別施策等で対応する。

I-4 つくば市のPRの推進(15班): 専門部会B(2日目)

No.	発言者	意見内容	回答 ■事務局 □その他	対応方針
15-1	林委員	PRと言っているのは、市民向けか市外・観光客向けのことを言っているのか、両方なのか、指標をみると市民向けのように見えるが、どちらなのか。	<input type="checkbox"/> 今後明確化するが、市民向けで考えている。SNSについては、市外の注目を集めていきたいということも狙っているが、指標の取り方としては市民向けで考えている。(WT) <input type="checkbox"/> 「市民発信数」などの指標をいれてもらえると分かりやすい。また、94ページにも記載してあるが、つくば市としての統一ブランドデザインなどをいれるとよい。(林委員)	つくばファンクラブのいいね数(≒拡散数)が市民発信数になると考える。その他の指標については今後検討。
15-2	宇津野委員	PRとは直接関わらないかもしれないが、ラジオつくばや災害メール、市の行事・補助金の情報発信など、市民にとって有益な情報を身近なツールで流していくことが大事な取り組みと思う。防災無線などの有事の際の提供や観光部署など他部署とも連携して提供してもらえるとよい。	—	既存事業により対応済。
15-3	小玉部会長	職員研修の内容はどのようなものか。	<input type="checkbox"/> 課題の掘り起こしというよりは、情報発信のスキルを向上させる研修と思っている。(WT)	—
15-4	小玉部会長	ホームページを見る人は、市民だけでないが、外部から見られているかどうかを検証しているか。	<input type="checkbox"/> 検索に関する分析は、グーグルアナリティクスで分析可能である。データの解析スキルなども今後高めていけるとよいと考えている。(WT)	—

Ⅱ-1 地域での支え合いやつながりの推進と医療、介護、福祉の充実したまちを目指す

(1班)：専門部会A(1日目)

No.	発言者	意見内容	回答 ■事務局 □その他	対応方針
1-1	望月委員	P20 基本施策の名称について、福祉の文言が2回出てきているため、言葉を使い分けたいと思う。 2030年の未来像の「福祉」はどの文言にかかっているのか。	□「地域で支えあう福祉」は見守りといった互助の内容について、「医療、介護、福祉」は市の介護サービスを意図して記載していたが、改めて表現は検討したいと思う。2030年の未来像の「福祉」は、「充実した医療や介護、必要な目配りや支援など」の言葉にかかっている。(WT) ■2030年の未来像までの内容については昨年度のワーキングチームで決定した内容ではあったが、必要に応じて修正を行っていく。	基本施策の名称の修正で対応する。
1-2	小原委員	民生委員と区会のコミュニケーションはほとんどない実態だが、重点戦略の中で「見守り」について、地域の見守りに関する記述は行わないのか。	□今後つくば市では見守りを行っている団体から情報提供をしてもらい、つくば市全体で見守りが行える体制を整えたらと考えている。細かい議論になってきたところで、社会の見守りについて検討したいと考えている。(WT)	重点戦略2の目的と方向性に記述する。
1-3	中井委員	包摂都市については、子ども、高齢者、障がい者などの個別の対策でなく、それらを包含できる動きになると思う。「つながりを力に」という基本理念に結びつかない重点戦略に思える。 学校は地域の核になると考えているため、今回の議論内容をぜひ活かしてほしい。	□重点戦略1に記載している内容がご指摘いただいたものに近い内容だと考えている。ただ、いきなり達成することは難しいため、高齢者の集いの場に子供や障がい者を集められるような仕組みを作れたらと考えている。(WT) □現在の条例上、学校を集いの場にするには困難である。(中嶋(信)委員)	学校も含め、集会場や空き家など、小さな地域での居場所づくりを行う。
1-4	山口	WT 同士で各項目の課題を出し	—	—

No.	発言者	意見内容	回答 ■事務局 □その他	対応方針
	委員	合い、新しい発想で事業提案をしたらどうか。		
1-5	飯野委員	学校施設の利活用は、校長の立場上使用することが難しいが、集会所の利活用などについて今後検討したらよいと思う。	—	集会場や空き家など様々な場所を想定している。
1-6	伊藤委員	地域を支えようとする意欲のある高齢者と、支援が必要な高齢者の区別をした福祉の対応が必要であると考え。	—	—
1-7	生田目委員	重点戦略の4つをつなぐ、何かを作るというような表現を加えたらどうか。	<input type="checkbox"/> いただいたご意見をもと検討したいと思う。(WT)	—
1-8	山口委員	超高齢化社会に起こりうる諸問題について、どのように認識し、考え、評価するか。 重点戦略4について、認識が甘い印象がある。重点戦略の中でも具体策を記載したらどうか。	<input type="checkbox"/> 地域の人たちの見守り活動、地域包括支援センターの配置等を行うことで、医療、介護、福祉のサービスの対応をしたいと思う。指標については、在宅死や孤独死に関する数値について検討したいと思う。具体的な内容については今後記載するか否かを含め、改めて検討したい。(WT)	超高齢化社会に対応するため重点戦略1～4を作った。 孤独死の数値は出ていない。

Ⅱ-2 人生 100 年！生涯いきいきと暮らせるまちを目指す(2班)：専門部会A(2日目)

No.	発言者	意見内容	回答 ■事務局 □その他	対応方針
2-1	中嶋 (信)委員	「健康診断の受診率」については、職場で受診する方は除いて計測しているのか。	<input type="checkbox"/> 国民健康保険の対象者としており、特定検診は40歳から74歳までの受診率である。(WT)	—
2-2	門脇 委員	全体としては科学技術によるイノベーションを大事にしていくことが重点になってくると考えている。また、これからはシェアするという考え方が極めて重要になってくるが、この未来構想・戦略プランの中でどのように考えているか。	<input type="checkbox"/> ワーキングチームでも今後検討していきたいと思うが、多様な働き方の「多様な」という点について、「シェア」という考えも踏まえつつ検討させていただきたい。(WT)	介護支援ボランティア事業が「シェア」の考え方だと考える。
2-3	中嶋 (修)委員	「100歳まで元気で」ということについて、市の対応としてはどの辺までやるべきなのか。後期高齢者の検診についてはどうなっているのか。また、就労について70歳過ぎの人、80歳でも働きたい人の仕事の間・内容をどこで誰が設定するのか。ボランティア的にやるという意味での生涯現役という風に考えていくべきなのか、その辺を疑問に思っている。	<input type="checkbox"/> 1点目の75歳以上の方の検診について、後期高齢者検診があり、75歳以上の方は74歳までの方と同じ検査項目で検診ができる。2点目の高齢者の就業については、その方にあった社会参加の仕方ということで、ボランティアでの参加以外にもご近所の健康な方が、例えば足がご不自由な方のごみ捨てにお手伝いに行くとか、そういうのも立派な社会参加と捉えて環境づくりができればいいと考えている。(WT)	—
2-4	生田 目部会長	後期高齢者の受診率は指標に加えることは可能か。	<input type="checkbox"/> 指標に加えることは可能である。(WT)	加えなかった。(指標が4つあったため、1つに絞った。)
2-5	横田 委員	指標については「スポーツの実施率」とあるが、一般的なスポーツ以外にも日常生活における運動なども取り入れてみるのもいいと思った。もう一つが、高齢化率が上がっていく中で、要介護認	<input type="checkbox"/> 高齢化率については、つくば市は他の市町村に比べて低い状況にある。高齢化率と要介護認定率の比較として、高齢者は今から多くなっていくが、その	運動とスポーツ両方を取り入れている。高齢化率は回答の通り。

No.	発言者	意見内容	回答 ■事務局 □その他	対応方針
		定率(割合)の削減がどう実現されるのか。	中でもより健康な人を計るのが認定率ということで、今回はこの指標を定めている。(WT)	
2-6	門脇委員	シェアするということは様々な形で可能性が広がる考え方とっている。働き方だけではなく、他の施策・戦略でぜひ検討してほしい。	—	—
2-7	中井委員	「引きこもり・閉じこもりの人がいる」と書かれているが、これに対する対策、こういった方のご家族へのアプローチはどのように行っているか。	□閉じこもりについては、地域包括支援課にて民生委員を通じて行っており、ある程度把握できている。引きこもりについては、実態はまだまだ分からない状態である。(WT)	—
2-8	小原委員	“現役”という言葉を使うと抵抗を感じる人がいるようにも思う。	□再度、検討する。(WT)	生涯“いきいきと暮らせる”とした。
2-9	伊藤委員	行政は頑張って広報しているが、比較的元気な高齢者でも、「詳細はWEBで」とあるとその先の情報を見ることができないため、広報の仕方を考えていただきたい。	—	WEB 以外の広報手段も取り入れる。
2-20	生田目部会長	健康でない人たちを取りこぼさないためにどうするのかについて書かれているとより良かった。	□今後、検討していく。(WT)	1班と調整済み。
2-21	北本委員	「高齢者にとって、就労だけでなく社会的な役割(地域貢献含む)があることも重要であるため。」というのは素晴らしい指摘であるが、指標 2「介護ボランティア事業の活動者数」、PJ②「介護ボランティア事業の推進」というのはあまりに狭すぎないか。高齢者の方には、防犯であるとか、交通安全、空き地・空き家の適正管理、自然保護、観光、子育て	—	活躍の場が広くあるべきという意見については、御指摘のとおりだと思うが、観光、空き家管理など多岐にわたるプロジェクトと指標を所管することは難しいこと

No.	発言者	意見内容	回答 ■事務局 □その他	対応方針
		<p>てなどなど、活躍の場はもっと広 いはずであり、それを広げていく 政策が必要と考える。指標、主 要プロジェクトとも、再考すべきと 考える。(会議開催後意見)</p>		<p>から、防犯活 動、自然保護等 の活動を含む 「社会福祉協議 会のボランティア の登録者数」 を代替指標とす る。</p>

Ⅱ-3 地域や市民一人一人の備えを後押しするまち（3班）：専門部会A（2日目）

No.	発言者	意見内容	回答 ■事務局 □その他	対応方針
3-1	中井 委員	基本施策の名称に関して、「つながりを力に」という目標を掲げているが、“自己責任”という言葉が使われており、周囲に支援を求めてはいけないというニュアンスを感じる方もいるのではないかと思う。文言について再検討して欲しい。	□皆さんがつながりあう前に個人個人がやるべきことをやった上でつながる必要があると思っている。その次のステップとしてつながりというものがあるのではないか。ベースの部分をしっかりしていただきたいという思いから“自己責任”という言葉を入れた。(WT)	「自己責任」という言葉は使用しないこととする。
3-2	小原 委員	地域の防犯・防災について地域の皆さんとお話しをする機会があるが、何もしないで何とかしてよという人が大半。地域全体を見るとはっていないので、せめて自分の家のことは自分で守れと言うと理解してもらえないのではないか。	—	委員の意見通り自助を育成する方向にした。
3-3	中嶋 (信)委員	“自己責任”を基本施策にすると、公衆衛生の内容が入っており、これは100%自治体の責任なので、この言葉は使えないと思う。空き家と空き地について書かれてあるが、国においても対策を検討していて、法律の縛りが大きく地方自治体でやれることが限られるので、なくてもよいのではないかと思う。	□空き家対策計画を策定しており、その中で、市民の方から相談を受けたものに関して現地確認をして、崩壊の可能性があるものは修理業者を探し対処していただく取り組みをしている。(WT)	「自己責任」を使用しない。空き家空き地施策を除いた。
3-4	門脇 委員	“自己責任”を前面に出すのはやめたほうが良いと思う。人々が持っている様々なリソースを人々のために分け合うという視点がこの問題に対しては重要なのではないか。	—	「自己責任」を使用しないこととする。
3-5	山口 委員	“自己責任”ではなく、柔らかく、かつ伝わる言葉でいうと、「地域や市民一人一人の備えを後押しするまち」とか、その程度のニュアンスであれば伝わると思うがいかがか。感染症の話については、重点施策等にわざわざ書き込まなければならない内容なのか疑問。また、空き家の	□表現については、参考にさせていただく。予防接種のところは、つくば市は住民の移動が多く、それをどのように漏れないようにやっていくのか担当部署で一生懸命議論しているため掲載した。空き家・空き地について、行政代執行につな	「自己責任」を使用しないこととする。空き家空き地施策を除いた。

No.	発言者	意見内容	回答 ■事務局 □その他	対応方針
		有効活用については、わざわざ他の班と別立てする必要があるか確認したい。	がるようなものがあるか継続的に考えていきたい。(WT)	
3-6	横田委員	イベントを通して備蓄の大切さを訴えることは大切だが、お店など消費が近いところで訴えるかけることも重要であると感じた。また、ジョグパトの効果を行政側がどれだけ考えているのか教えていただきたい。防犯灯のLED化事業について、LEDにすることに効果があるのか疑問。アンケート結果からも道の暗さを改善するべきなのではないかと思う。	□店頭販売については考えていきたい。ジョグパトの効果は、抑止力としての効果があると考えている。明るければ犯罪が起きないのかという議論があったが、見えない空間から少しでも明るくしようということで取り組んでいる。防犯面では必要なためそのまま継続して取り組むことを考えている。(WT)	計画には反映しないが、備蓄については前向きに検討する。
3-7	中嶋(修)委員	防災無線はつくば全域に設置しなくてもよいのか。	□現在、つくば市で防災無線を設置しているのは主に土砂災害警戒区域・浸水想定区域である。携帯電話・スマートフォンの普及に合わせ、エリアメールによる伝達を進めている。また、防災無線は一機500万かかるので、情報発信の方法としては別の方法についても検討中である。(WT)	計画には掲載しない。
3-8	小原委員	空き家に限らず、隣近所で木の枝等が交差していることがある。隣近所で迷惑にならない範囲で枝や庭をきれいにしていただく方法として、行政よりもそのまちの人が直接言ったほうが効き目がある。そのために隣近所の人と連絡を取れる方法を考えてほしい。	—	計画から空き家について削除した。
3-9	中嶋(信)委員	情報公開法の縛りがあるが、ある程度責任をとれる方には情報を流してもいいのではないかと考えていただきたい。	—	計画から空き家について削除した。
3-10	生田目部会長	意識啓発の活動は色々しているようだが、出前講座等の数等も立派な指標になりえると思うが、最終的にどうなったかを指標にしているとい	□出前講座については、大きな災害が起きると講座数が増える。また、それぞれが色々な活動をしているため全てを把	指標にはしない。

No.	発言者	意見内容	回答 ■事務局 □その他	対応方針
		うことは、伝えただけではだめという 思いがあるからなのか。	握することはできないということ もあるので指標としては今回は 結果のみ採用している。(WT)	
3- 11	生田目 部会長	防災キャラバンや防災カフェ等の 活動は今後考えていないのか。	<input type="checkbox"/> 防災のイベントは今後少し づつ行っていく予定である。 (WT)	啓発イ ベ ン ト に つ い て 掲 載 す る。
3- 12	生田目 部会長	新しい情報伝達の手法を考える際 に、社会的弱者にも配慮した方法 を検討してほしい。	<input type="checkbox"/> 検討する。(WT)	今回は自 助の促進 にした。

Ⅱ-4 公共施設やインフラのマネジメントを推進する（4班）：専門部会A（2日目）

No.	発言者	意見内容	回答 ■事務局 □その他	対応方針
4-1	中嶋 (信)委員	重点戦略に番号がついているが、順番と優先順位は関係あるのか。	■基本的には優先順位と戦略のストーリーを考慮して順番付けをしている。(事務局)	—
4-2	中嶋 (信)委員	市の予算状況を考えてとインフラを全て管理することは難しく、不可能なことはできないというべきである。市全体の中で何をやるかということは検討していただきたい。	□5年間で行うことを考えて順位付けしている。現実的には、壊れる前に対処していくことを考えて記載した。(WT)	インフラは、社会生活、産業活動を支えるものであるので、その維持管理を放棄することはできない。 なお、公共施設等の統合や廃止等については、社会情勢や市民ニーズを考慮し、個別施設計画(長寿命化計画)を策定する際に検討する。
4-3	生田目 部会長	前半・後半に分かれているが、そのスパンの考え方についてどのように考えているか。	■全体の構成としては、2030年の未来像に向けて、前半5年・後半5年としている。 □6年目以降の優先順位は改めて検討していく。(WT)	次回の改定時に対応する。
4-4	山口 委員	「集約化の方針の策定」とあるが、まとめる方向性について教えていただきたい。本当に必要な需要とサービスの関係についてどう考えているのかについてどのように考えているか。	□集約化・複合化については、その地域でどのようなサービスが必要になっているかという現状分析や情報公開が前段にあって、方針を決めていくことが大切と考えている。情報を公開してみなさんとともに形にしていくことにしたいが、ルール作りも含めて方針を作ってっていきたい。(WT)	既に「複合化・集約化の指針の作成」プロジェクトの概要に方向性については、記載している。
4-5	山口 委員	単純にダウンサイジングとはいかない。数としては減少したが、結果便利になったといってもら	—	複合化・集約化の指針を作成する際に他部署と協議を実施していく。

No.	発言者	意見内容	回答 ■事務局 □その他	対応方針
		えるよう他の班と協力することも重要である。		
4-6	横田委員	<p>公共施設のコストを下げたり、集約すると市民の満足度は下がると思うが、今回なぜ指標として満足度に注目したのか伺いたい。また 2025 年に果たしてそこまで上がるのか。</p> <p>また、公共施設に係る費用等については、料金割合はどうなっているのか。公共施設の長寿命化は、一人一人に与える影響・期待が少ないように感じられる。</p>	<p>□道路等のインフラサービスに限って一つの指標として設けており、施設については対象外としている。また、後者については、利用料については受益者負担という考えがあるなか、施設の付加価値をあげて利用割合を向上させることが大切と考えている。公共施設の維持管理に費用を充てることを考えている。(WT)</p>	<p>満足度を指標にしていたものについては、基本施策のところは、「個別施設計画の策定数」、重点戦略3の指標2については、削除し指標1だけにする。</p> <p>料金の割合は、それぞれ公共施設により違いがあるので、一概には言えない。</p> <p>長寿命化することによる、市民一人ひとりに与える影響は少なく感じるかもしれないが、市の財政負担が軽減され、全体として考えれば、本来、修繕等に充てる財源を他の行政サービスに充てることが可能になり、結果として市民一人ひとりに還元することができる。</p>
4-7	山口委員	<p>今の質問に関連し、使用料を増加させることは減免の利用者が多い現状ではなかなか難しいので、稼働率をみるための指標などにしても良いように思う。</p>	<p>□人数で見ると利用率は上がっているが、収入・料金が少なくなることもある。そこを区別できるようにできればなおよい。(WT)</p>	<p>各公共施設によって稼働率が異なるので、指標としては適さない。</p>
4-8	山口委員	<p>料金を上げるということが狙いではなく、維持しているものを適切に利用してもらうことが狙いだと思う。満足度について</p>	<p>□今後、検討したいと思う。(WT)</p>	<p>施設の適正配置や複合・集約の指針を作成する際には、当然市民ニーズを考慮し満足度を下げないように検討する。</p>

No.	発言者	意見内容	回答 ■事務局 □その他	対応方針
		は、適正化させても満足度は下げないということも重要ではないか。		
4-9	飯野 委員	満足度については、アンケートをとることが一般的であるが、逆に不満足に着目してそれをなくすような指導を設けることも一つの方法である。	□改めて検討したい。(WT)	必ずしもアンケートを実施している施設ばかりではないので、指標としては適さない。満足度については、全ての指標から外した。

II-5 身近な自然を守り、楽しみ、持続させていくまち（5班）：専門部会A（2日目）

No.	発言者	意見内容	回答 ■事務局 □その他	対応方針
5-1	生田目 部会長	つくばジオパーク活動を今後10年間でさらに伸ばしていくための新しい取り組みは検討しているか。	□科学技術やユニバーサルデザインをしっかりと活かして、引き続きやっていきたい。今年度からジオパークの拠点施設を検討中であり、それらの仕組み作りを考えていきたい。(WT)	今後10年間の取組の中で検討していく。
5-2	門脇 委員	重点戦略1について、ここでは自然のみに限定しているが関連する文化財や遺跡等は含める必要はないのか。	■80ページの13班の重点戦略の4つ目のところに記載しており、その中で検討していくことを想定している。 □ジオパーク活動の中では、歴史や文化等を総合的に紹介していくことが大切である。これらを残していくためには魅力を知っていただくことが大事だが費用がかかる。それを観光業でうまくまわして保全に向けてお金を取り込めるような循環型のシステムがジオパークの役割であることから「保全」だけではなく、「活用」も含めて検討していきたい。(WT)	13班の重点戦略で検討して頂く。
5-3	小原 委員	県の活動に参加し、牛久沼の活用について考える機会があった。きれいにしたいからテーマに取り上げたいと思ったが、龍ケ崎市の管轄で何回言っても変わらない現状があり、難しいと思うところもある。	□牛久沼についてあげられているものの、大半が龍ケ崎にあり、どこまでつくば市が活動していくのかという議論がある。ジオパーク活動の取り組みに関する発表を通して、まずは子供たちに地域の良さを知らせることが大切なことであると感じた。子供から伝えていくことで地域に自信を持つ人々が増えていくと考えている。(WT) ■牛久沼については、一昨年から牛久沼周辺の首長会議を設置し、利活用について話し合っている。龍ケ崎から、6号	2030年の未来像の中で牛久沼について明記し、対応する。

No.	発言者	意見内容	回答 ■事務局 □その他	対応方針
			国道沿いに道の駅の構想を持っており、それに合わせて牛久沼周遊のサイクリングロードやウォーキングコースを行いたいという提案がある。つくばとしては参加したい旨を伝えている。	
5-4	飯野 委員	借景で独自に何かをやるという考えもあるのではないかな。	□引き続き検討していこうと思う。(WT)	ツアーでの活用など引き続き検討していく。
5-5	中嶋 (修)委員	「筑波山・牛久沼などの美しい景観」については、活用は進んでいないが牛久沼も言葉として入れてほしい。筑波山は有名だが、行く回数や登る回数が住民でも少ない。健康面との関係で、筑波山に何回登ったという記録表を残してはどうか。りんりんロードを走った回数など 100 歳まで生きる一つの方策としてやっていくのはどうか提案したい。筑波山に行きたい人がいても駐車場の問題がある。ピストンバスを走らせたり、観光客がスムーズに上がれるような方策を考えていくことがつくばをよいまちにすることの一つの方法だと思う。	□健康長寿はジオパークも意識しており、ツアーや街歩きを実施し、ジオパークは健康にいいというスタイルをPRしていきたい。渋滞対策については、検討を続けていく。ジオパークをいかして地域の良さを含めて、地域を愛する気持ちになってもらえれば、観光客に対してもそのような対応ができるのではないかなと思う。(WT)	2030 年の未来像の中で牛久沼について明記し、対応する。 健康面との関係については、今後 10 年間で検討していく。
5-6	生田目 部会長	牛久沼“など”と入れることについてはどのようにお考えか。	□市民意識調査の項目にもなっているので大丈夫かなと思う。(WT) ■未来像についても必要に応じて見直すこととしているため、変更を検討したい。	2030 年の未来像の中で牛久沼について明記し、対応する。
5-7	横田 委員	筑波山に人がたくさん来るようになることはいいことであるが、山のマナーの面を考えていかなければいけない。全体に関することであるが、筑波らしさを	□守るべき自然とは何かについて検討し、ゾーン分けを行い、ターゲットを絞って取り組んでいきたい。(WT)	重点戦略No.1 プロジェクト②の「体験型の身近な環境教育事業」の中

No.	発言者	意見内容	回答 ■事務局 □その他	対応方針
		もう少し出してもいいのではないかと思う。身近な自然といえばペDESTリアンデッキのような豊富な緑をイメージしてしまうが、担当が別の課になっていたので、そのあたり誤解がないような表現の仕方はないのか。		で対応する。
5-8	中井 委員	「多忙による子育て世代の環境問題への無関心」とあるが根拠はあるのか。むしろ、子育て世代の方が環境問題に関心があるように感じる。そういった子育て世代へのアプローチについて記載されていないが、どう考えているのか。	<input type="checkbox"/> 確認・検討する。(WT) <input type="checkbox"/> 逆に子育て世代の方が関心が高いと思うがどうか。(飯野委員) <input type="checkbox"/> 多忙というところを少しくローズアップしすぎたので再度検討する。(WT)	重点戦略No.1プロジェクト④の「誰もが自然を学べる場の提供」の中で対応する。
5-9	中嶋 (信)委員	中学生と高校生は多忙でこれらの親はほとんど外へ行けなくなる。夏休みの少なさや宿題などといった学校の縛りから解放しないと親も動けないので、自然に触れる機会が失われていく。そこを検討していくべきである。	—	小中学生については、重点戦略No.1プロジェクト①の「つくばスタイル科による環境教育」の中で対応していく。また高校生以上の方々にはプロジェクト④「誰もが自然を学べる場の提供」の中で対応する。
5-10	山口 委員	先ほどゾーンという話があったが、「自発的な保全活動の推進」について、保全することのインセンティブがあまりにもなさすぎると思うが考えがあれば教えていただきたい。	<input type="checkbox"/> かつて環境ポイント等があったが、今後自分の行動が自分に返ってくるものがないと真剣に考えてもらえないだろうなという点で悩んでいる。(WT)	今後 10 年間の活動の中で検討して行く。
5-11	山口 委員	農地は農地として生かしたほうが自然として正しいが、中間的	<input type="checkbox"/> エリアを決めて活用されている方がいるので、林なり、雑木林	重点戦略No.1

No.	発言者	意見内容	回答 ■事務局 □その他	対応方針
		な雑木林などの対策についても考えていただきたい。	で広がっていけばと思う。そういう人たちをどのようにして育てていくかを地域の良さを伝えながら検討していきたい。(WT)	プロジェクト②の「体験型の身近な環境教育事業」の中で対応する。
5-12	中井委員	雑木林で遊ぶ会といった活動を何らかの形でバックアップするような仕組みがあれば教えていただきたい。	□検討していきたい。里親的に募集して、管理していただくようなことはやっているのですが雑木林についても同様に検討できるのではないかと思います。(WT)	重点戦略No.2プロジェクト①の「環境保全活動への支援事業」の中で対応していく。

Ⅲ-1 子どもも親も楽しく育つ環境をつくる（6班）：専門部会A（2日目）

No.	発言者	意見内容	回答 ■事務局 □その他	対応方針
6-1	中井 委員	民間でも子育て支援の取り組みが始まっているとあるが、これは具体的に何を指しているのか。	□つくば市子育て便利帳で“民間の取り組みを紹介しており、ここから引用している。（WT）	記載内容を見直す。
6-2	中井 委員	これらをピックアップしている理由はあるか。また、これらの団体は事業を継続することに非常に厳しい現状であるが、その実態について把握しているのか。	□便利帳を作成した担当者が班員にいないため把握していない。（WT）	担当課と協議し、現状を再確認する。
6-3	中井 委員	子育て世代が地域とつながるための情報提供の仕組みが整っていないと感じる。小さな悩みや困りごとを本当に身近な場所で解消できるようなシステムを入れ込んでいただきたい。	—	主要プロジェクトに追加する。
6-4	中嶋 （信）委員	出産できる医療機関が少ない。近隣の市町村と協力するような体制ができているのか。	□出産できる場所については、健康増進課としても課題として取り組んでいく。（WT）	医療機関については主要プロジェクト化する。協力体制については既に利用可能である。
6-5	中嶋 （信）委員	保育士不足をどう解消していくのか。	□前向きに取り組んでいるニュアンスが盛り込まれるとよりよいと思う。（生田目部会長）	記載内容を見直す。
6-6	中嶋 （信）委員	学童保育について記載がないがどうなっているのか。学童保育について公立と民間とで金額や預かってもらえる時間に差があり、はしごしている家庭もある。解決に向けた考えなどはあるか。	□学童保育は何班に所属することになるか。（生田目部会長） ■7班とも協議して検討していきたい。	7班で対応する。
6-7	生田目 部会長	保育士の処遇を5年かけて改善すると記載されているが改善されるのか。	□実際に現在も取り組んでいるが、保育士確保が少しずつ進んでいる印象がある。（WT） □具体的に結び付く指標があ	—

No.	発言者	意見内容	回答 ■事務局 □その他	対応方針
			れば、市民の皆さんも安心できる。(生田目部会長)	
6-8	門脇委員	「創意工夫にあふれた様々な遊び場の機会」の範囲をどこまで想定しているのか、今後検討してほしい。	—	記載内容を見直す。
6-9	中井委員	「創意工夫にあふれた」という部分は誰の創意工夫か分からない。遊び場の作り手、整備する側の工夫なのか、そこで遊ぶ子どもの創意工夫なのか、「創意工夫を引き出す」など主体が分る様な文章にして欲しいと思う。	□表現については検討したい。(WT) □冒険遊び場という言葉が使えれば一番いいと思う。(門脇委員)	記載内容を見直す。
6-10	中井委員	「多様な保育ニーズ」とあるが共同保育の考え、子育てを通じて地域とつながり、親自身も人間として成長できるという視点も盛り込んでほしい。	—	記載内容を見直す。
6-11	山口委員	「一貫して相談できる専門組織を設置する」という言葉があるが、今ある子育て総合支援センター等と何が違うのか。	□今後開設予定の児童発達支援センターを想定している。(WT) □民間団体との連携も含めて幅広く柔軟に考えて頂けるとよい。(生田目部会長)	記載内容を見直す。
6-12	門脇委員	「冒険遊び場」と言えるような場所があると思うかというところとほぼゼロに近いので、ぜひ増加するような指標を設けて欲しい。	—	戦略のKPIとして適さないため、対応しない。
6-13	生田目部会長	市民意識調査は何課が担当しているのか。今後、指標を追加する余地はあるのか。	■市民意識調査については事務局の企画経営課で担当している。現在の2年に一度を改め、毎年行えるような形で検討している。新たな設問の必要性が出てくれば追加という事は検討できると思う。(事務局)	—

Ⅲ-2 じぶんの「好き」が見つかる環境をつくる（7班）：専門部会A（1日目）

No.	発言者	意見内容	回答 ■事務局 □その他	対応方針
7-1	望月 委員	P49 の「追及」は自分のことだけを追求するという意味か。	□文言については再度検討したいと思う。(WT)	表現を一部修正。
7-2	中嶋 (信)委員	ICTなどの充実については、機材の調達にコストがかかるため、現実的に難しいと考えているがいかか。	□つくば市は全国 ICT 首長協議会に入り省庁と連携して最適な方法で ICT の導入を検討している。その他、今あるアプリケーションや WEB の活用や、企業と交渉したコストの縮減に努めている状況である。(WT) □年間 10 億円くらいかかっている例もあるようだが、投資に関する覚悟が必要になる。(中嶋(信)委員)	個別施策を全体的に見直しているが、環境の整備は必要な事業であるため、引き続き行っていきたい。
7-3	横田 委員	P52「早期教育」を記載した意図は何か。 P53 重点戦略の目的と方向性について、「すべての児童館」というと、児童館のみが対象と捉えられる。 「一般来館者数」を利用した指標について、飽和状態の中で設定しているため、別の指標に置き換えたほうが良いと思う。	□早期教育について、幼児になるよりも前に、英語などの教育をしたほうが良いという保護者の意見があることから記載した。(WT) □子供たちが放課後集まる場所として、児童館であると考えたため、市内公立施設として提案した。一般来館者を指標にするほか、施設の設備に関する指標を検討している。(WT)	一般来館者を増やすことは重要な課題であるため、引き続き行っていきたい。
7-4	中井 委員	基本施策について、子どもの主体性を発揮できる余地をつくるのが課題であると捉えている。保育園の生活はとても忙しいため、生活の中に幼児教育を導入できる余地はないと思う。また、児童については主体性を発揮できるカリキュラムを具体的にご検討いただきたい。	□WT にて後日教育に関する議論をしたいと思う。(WT)	引き続き検討中である。

Ⅲ-3 多様性に寛容な社会をつくる（8班）：専門部会A（2日目）

No.	発言者	意見内容	回答 ■事務局 □その他	対応方針
8-1	横田 委員	指標②について、外国の方に対するアンケートや相談件数の増加に対する予算はどのようになっているのか教えていただきたい。	■アンケートは日本語なので日本語を理解できる外国人は対象となる。 □外国人に限ったの集計は厳しい。国際交流室でそのような指標を持っているのか確認したい。予算については今後考えていく。(WT)	—
8-2	中嶋 (信)委員	重点戦略の中に教育現場での対応を付け加えるべきである。	□検討する。(WT)	主要プロジェクト③を追加する。
8-3	中嶋 (修)委員	外国人労働者について、その人々たちに対する住みよいまちへの対応について入れておくべきである。	□検討する。(WT)	主要プロジェクト①で対応する。
8-4	門脇 委員	人間の能力は極めて多様である。ここに“いかなる障害を持っているか”といった障害についても触れるべきである。	□近年では、一般的に「個性」という表現が多いが、そのような書き方はどうか。(生田目部会長)	重点戦略1の「目的と方向性」に「個性」を追記する。
8-5	山口 委員	外国人の定住した人がいれば、満足しているということがわかるが、その指標についてなにか考えているのか。また LGBT の書き込みは可能であるか検討を行ったのか。	□「個性」の中に性の多様性も含まれていると考えられる。(中井委員)	
8-6	飯野 委員	まちなかの道路標示等もここに入れるべきではないか。他に扱っている班があるのか。	■他の班で扱っているところは今のところない。	—
8-7	生田目 部会長	つくば市では早くからユニバーサルデザインに取り組んでいるため、それを使ってうまくまとめるとよい。	□検討する。(WT)	重点戦略1の「目的と方向性」にユニバーサルデザインの概念が含まれている。

No.	発言者	意見内容	回答 ■事務局 □その他	対応方針
8-8	山口委員	チャレンジ支援の位置づけについて他の班でも似た内容が見受けられるが、違いはどうなっているのか。	□両班でそれぞれの役割について調整を行っているので、表現等については今後検討していきたい。(WT)	8班では主に市民等を支援対象としているのに対し、9班では地元企業を対象としている。
8-9	山口委員	みんなのチャレンジを応援する室についてどのように考えているのか。	□相談窓口を設けることを考えている。(WT)	—
8-10	北本委員	重点戦略1「多様性に寛容な社会の推進」の主要プロジェクト②の文化交流事業について、つくば市にはせつかく多様な国から大勢の外国人が集まっているので、料理、スポーツなどの分野で、もう少し大掛かりな祭典のようなことをやるというのではないか(〇〇EXPOなどと称して)。そういったところでは、SDGs の理解や認知度も広がりやすいものと思われる。 (会議開催後意見)	—	委員御指摘の目的に沿って開催しているイベントとして、毎年5月に「つくばフェスティバル」における国際交流フェアを開催している。
8-11	北本委員	重点戦略2「市民の新たなチャレンジを支援する仕組みづくり」の「みんなのチャレンジを応援する室」は相談窓口を設けることを考えているようであるが、その相談窓口の人が行政支援的あるいは法的な相談を受けるだけでは不十分で、市内の研究者、専門家、企業等がどういう知識、技術等を持っていて相談に応じてくれるかといったデータベースを持っている必要があり、それを作るプロジェクトが必要だろう。そういう基本施策や重点戦略を横断するようなプロジェクトがあるのではないかと思う(重点施策ごとにプロジェクトを考えるだけでなく)。	—	庁外の知見の集約・活用については、今後検討も必要になると考える。 (なお、重点戦略2については、今後12班に移行予定)

IV-1 知識集約による社会イノベーションが生まれるまち、IV-2 地元で頑張る組織や人が成長し続けるまち（9班）：専門部会B（2日目）

No.	発言者	意見内容	回答 ■事務局 □その他	対応方針
9-1	永井委員	昨日の会議では「規制緩和」のような仕組み・ルールを促進しやすくするべきだという話があった。これらについては“柔軟に検討していく”のようなニュアンスで記載したほうが良いように思う。	—	基本施策9班の1の現状とのギャップ・施策の方向性に「国の制度等を活用した規制緩和を検討」を追記。
9-2	永田委員	基本施策と目標については書いてあるが、誰がやるべきかが分からない。知識集約を進めることはよいことだが、企業をもってきてもいいとすれば登記料を優遇するなどにより法人税を取得できるよう、登記し易くするような場所をつくることなど、自治体がやるべきこと、住んでいない人も呼び寄せることをしないといけない。2番目の「地元で頑張る組織や人が成長し続けるまち」も、市民がやればよいなかで、自治体としてやらなければいけないものは何かについて考えるべき。規制緩和、法律を変えるなどとともに、誰が責任をもつのかについても検討すること。	□様々な取り組みにおいてボトルネックを解決する人が書けると、市の施策になるかどうかがみえてくる。全体の立てつけを再度レビューするとよい。 (小玉部会長)	会社設立に係る登録免許税の補助は実施済みであり、今後スタートアップビザの規制緩和等を進めることを計画に含むため、対応する(修正はなし)
9-3	永田委員	農業もよいことが書いてある。農業従事者を育てるのか、どこからか呼んでくるのかについて明確化すること。今、注力すべきは、後継者づくりで、6次産業化やベンチャー企業化は必ずしも困難でない。農地を貸してくれる人と連携して、中間マージンが入らないような仕組みを作り、都内でも売れるような方法を考えるべき。農業未経験者が構わないので、どんどん人を呼ぶことが大切。また、今やっている人と次世代の人が手を取り合うことが重要。バラバラに作っても売れないので、同じ場所に集約できるまちづくりにしないといけない。	—	基本戦略9班の2-2重点戦略の目的と方向性に、市外からの農業従事者の支援について「販売まで支援すること」を追記。

No.	発言者	意見内容	回答 ■事務局 □その他	対応方針
9-4	林委員	施策1・2を通して、指標については、指標の達成が施策の実現につながるようなものを選ぶこと。納税額などを指標にすることもよい。また、57ページの「社会イノベーションが生まれるまち」は、自然科学だけでなく、人文科学についても考え及ぶとよい。	—	指標1・2を見直した。
9-5	永井委員	新規就農に対しては、農地の提供はできるが、住むところを提供することも大きな要素になると思う。	□ボトルネックとなる部分について、もう少し掘り下げるとよい。(小玉部会長)	13班の施策と整理を行う。
9-6	高谷委員	農業について、つくば市は、新規就農者が県内で一番多く、若い人に魅力を感じてもらえていることと思うが、一方、農家の跡取りが農業をやらないといった問題もある。新規就農者が農地を見つけることはそんなに難しくないのが就農に関する色々な情報を活用して推進できるとよい。	—	グリーンバンクなどの制度について、情報発信を行っていくことを計画に含むため、対応する(修正はなし)。
9-7	宇津野委員	60ページの“地元で頑張る組織”についての指標が「ふるさとハローワーク」を挙げているが、永田委員からも指摘があったように、行政が行うことの内容を明確にする必要がある。企業誘致した場合は、固定資産税を免除するなどの規制緩和策が重要となる。他自治体よりもポイントを絞って優位になる点を強調できるとよい。	□施策と対応する指標が設定されているかについても検証するとよい。(小玉部会長)	基本施策9班の1の現状とのギャップ・施策の方向性に「国の制度等を活用した規制緩和を検討」を追記。
9-8	北本委員	基本施策「知識集約による社会イノベーションが生まれるまち」の重点戦略1「社会課題解決やイノベーション創出のための共創の場づくり」の方針に書かれている「市民・研究者・企業等、多様な人材が出会い、交流し、地域課題や社会課題を共有する場をつくることで、課題解決や新たな価値創造に向けた共創を促進する。」という方針は的を射ていると思う。ただ、このような市民・研究者・企業等の多様な人材の出会いや交流、共創の場とい	—	9班の2 重点戦略2「地元企業等の新たなチャレンジを支援する仕組みづくり」の主要プロジェクトに「産業振興センターを活用した交流事業」

No.	発言者	意見内容	回答 ■事務局 □その他	対応方針
		<p>うのは、8班 重点戦略2「市民の新たなチャレンジを支援する仕組みづくり」の市民のチャレンジや、9班の2 重点戦略2「地元企業等の新たなチャレンジを支援する仕組みづくり」の地元企業等の新たなチャレンジや9班の2 重点戦略3「地域モデル事業者の育成」の地域モデル事業者にも有効だと考える。 (会議開催後意見)</p>		<p>を位置づけた。</p>
9-9	北本委員	<p>重点戦略2「地元企業等の新たなチャレンジを支援する仕組みづくり」の地元企業等の新たなチャレンジは必ずしも創業にこだわる必要はなく、むしろハードルを上げるのではなく、広く「生産性の向上」で良いと思う。指標も、ここでの創業件数の定義や計測方法がよく分からないが、厳密な創業に限る必要はないと思う。 (会議開催後意見)</p>	—	<p>重点戦略2の主要プロジェクトに地元企業等の技術革新や事業拡大の支援を追加する。</p>

IV-3 まちの進化のために新技術等の導入を促進する（10班）：専門部会B（2日目）

No.	発言者	意見内容	回答 ■事務局 □その他	対応方針
10-1	小玉部 会長	65 ページの 1 番目の指標（「科学のまちであることの恩恵」）は、聞き方、答え方が分からないとミスリードになる。戦略に適合する指標にするとよい。	—	他の指標の設定を検討したが、他に適切な候補がないため、当指標を使用している。
10-2	永田 委員	低炭素の部分はつくばらしく、実現性の面でも、今のデジタルサイエンスの流れからいくとほどなくできるようになる。問題は、低炭素の推進について、何にコストを払い、コストに対するパフォーマンスをかけるかどうかの決断が必要になるということである。 公共交通の問題は 2 者択一で、一つは、公共交通を利用しやすくすること、もう一方は、ネットワークを作らない社会を選択することである。システムを広げて便利にするのかどうかを考えたうえで選択することが重要である。	—	低炭素化の分野は「IV-4 地球に優しく「ごみ」のない低炭素で循環型のまちをつくる」に移動しているが、コストに対するメリットを整理し、できることから実施していきたい。
10-3	林委員	掲げている指標が全てアンケート指標という点に疑問がある。65 ページの「近未来技術の社会実装」は、ロボティクスに偏りすぎているので、もう少し別の技術をいれてもらえるとよい。 63 ページの「地域モデル事業者の育成」は、個人情報への壁がある。先端技術やデジタルデータの活用にチャレンジしてほしい。	—	アンケート以外の指標も取りいれている。ロボットが現在分かりやすい事例であるため目立ってはいるが、それ以外の技術も社会実装につなげていきたい。
10-4	西委員	重点戦略が市に偏っている印象がある。もう少し広域で考えられるとよい。 また、戦略の3については、市役所窓口の手続きの簡素化だけでなく、キャッシュレスの仕組みなども同時に検討する必要がある。	—	県等とも連携をとり施策を進めていきたい。 市の窓口でもキャッシュレスを取り入れていきたい。
10-5	小玉部 会長	この戦略の指標が「マイナンバーカードの交付率」とあるが、達成には様々な要因があるので再考する必要がある。	—	デジタル窓口を推進する上でのポトルネットとなるため、残している。

No.	発言者	意見内容	回答 ■事務局 □その他	対応方針
10-6	宇津野 委員	新技術の導入については、つくば市は、すべての面でリードしている。公共交通(68ページ)、低炭素化(69ページ)については、具体的な方策を練って、重点的に行ってもらい、交通弱者が納得する方策で進めてほしい。	—	公共交通は長年の課題であるが、今後高齢者等の交通弱者が増えると予測されるため、対策を打っていきたい。

IV-4 地球に優しく「ごみ」のない低炭素で循環型のまちをつくる(11班): 専門部会B(2日目)

No.	発言者	意見内容	回答 ■事務局 □その他	対応方針
11-1	宇津野委員	小玉部会長からあったように指標については、より具体的に設定されておりよい。目標を高く掲げて頑張っていたいただきたい。 また、地元の学生が食品ロスについて情報発信したところなので今後の動向等に留意して慎重に取り組んでいただきたい。また、意識の改革として官民一体となって食品ロスについての取組を進めることと、脱プラスチックについても、海で害になっているなどの報道もあるので、レジ袋を使用しないなどの取り組みなども含めて進めていただきたい。	—	意見を参考にに取り組んでいく。
11-2	林委員	具体的で行動につながる指標になっていると思った。71 ページ目の食品ロス低減については基本法ができて推進されているところであるが、例えば、産業廃棄物として食品を出す会社と市民食堂を結び付けるなどの取組も将来に向けてチャレンジできるとよい。	—	産業廃棄物として食品工場などから排出されるものが、食材として利用できるか不明である。
11-3	永井委員	指標は、個人が対象になっているが、事業系ごみの排出量も目標に掲げられないか。	□1 日一人当たりのごみの量は、計算により算定可能であるため指標にしているが、事業系ごみについては、総量は分かるが、どのように計算に入れるかは必ずしも要因でなく、悩ましい状況である。(WT)	1日一人あたりのごみの量は、家庭系ごみと事業系ごみの総量から換算している。
11-4	小玉部会長	リサイクル率は向上していても県・全国平均に及ばないという記載があるがその原因はどのようなものか。	□リサイクルの定義が調査年により数値が動く特徴がある。原因についてはまだ明確になっていないが担当課とも共有する。(WT) □関係者の中に行政が入っ	1日一人あたりのごみの量は、家庭系ごみと事業系ごみの総量から

No.	発言者	意見内容	回答 ■事務局 □その他	対応方針
			ていない施策・戦略があるので再度検討していただきたい。秋には、予算の検討があるので、市として何をやるのかを考えておくことがよい。(小玉部会長)	換算している。「重要戦略の現状」内の関係者欄は、計画者である市は必ず関わるので、あえて記載していない。
11-5	永井委員	「ごみの概念がない」など、良いコンセプトを掲げていたが、5Rを3Rにしているが、トーンが弱まっているということにはならないか。	□10Rなどは3Rを細分化したものである。3Rであればそれらの概念を包括するものであるので修正させていただいた。(WT)	—

その他：専門部会B（1日目）

No.	発言者	意見内容	回答 ■事務局 □その他	対応方針
B-1	山海委員	つくば市は国と連携し、データ集積に関する様々な取り組みを行っているため、データを核にした産業などを今後展開し、先進的な都市になりうるということが考えられる。	—	オープンデータを推進するとともに、それをスタートアップにつなげられるようにしていきたい。
B-2	山海委員	つくば市の提案された事業がスマートシティ構想に採択されたため、この流れを活かしたまちづくりを積極的に行ってほしい。	—	最先端技術の導入がまち全体にフィードバックされるように、様々な実験的な取組を行っていききたい。
B-3	山海委員	パーソナルモビリティを実現するにあたり、つくば市内での技術を育てていく場を作る必要があると思う。	—	技術開発支援等を継続するとともに、先端技術の活用を関係者間で検討できる場をつくっていききたい。
B-4	林委員	Maasの取り組みなど、つくば市の地域格差をなくした交通を検討してほしい。	—	自動運転車いすの導入などを検討しているが、交通の地域格差は長年の課題であるため、新技術等を活用して解決を図りたい。
B-5	山海委員	民間企業が持っている技術と、市が持っている情報を活かすことで、市民が満足できるサービスの提供ができると考えている。科学技術の恩恵がつくば市民に届いていない状況であるため、今後解消する必要があると考えている。	□庁内にストックされている情報の提供について、今後検討する必要があると考えている。つくば市民に科学技術の恩恵を知ってもらうために、より一層行政がアピールする必要があると考えている。（イノベーション部長）	各主要PJを推進し、科学技術の恩恵を市民生活に反映していききたい。

その他：専門部会B（2日目）

No.	発言者	意見内容	回答 ■事務局 □その他	対応方針
B-6	小玉部 会長	秋に向けて修正していくこととなるが、その視点として、ボトルネックの分析が甘いのではないかということ、解決する人も含めた関与者などの視点を追加することなどについてブラッシュアップすること。 もう一つは、指標の設定について、施策とのつながりについて検討してもらいたい。PDCAのCになるようにもう少し検討してもらいたい。	—	課題・ボトルネックの分析は再度見直しを行いたい。指標と施策のつながりについては、ストーリー化を意識し、整理したい。（事務局）
B-7	宇津野 委員	調書を作る際は、総花的になりがちだが、その中でも力点を置くためにもメリハリをつけたほうがよいと感じた。部会長がいったように、行政のすべきことをどのように表現するかも重要となる。施策を進める中で問題・課題があり難しいとは思いますが、怖がらずに課題を掘り起こしてほしい。	—	メリハリが効いた戦略となるよう、施策やプロジェクトの選定を再度見直したい。（事務局）
B-8	林委員	つくば市の戦略なので、つくば市がどうするかを前面に出すこと。 つくば市が各関係者に対してどのようにアプローチしてうまく進めていくことが見えるようなフォーマットにアレンジできるとよい。今後の戦略に基づき、市としての行動が見えるように表現してもらえるとよい。 指標については、アンケートの数値だけでなく、行動・結果の関係性を意識してもらいたい。	—	御指摘のとおり、つくば市がどうするかを前面に出していきたい。 指標については、「あるべき状態」を意識し、それを達成するためのものであるという意識を再共有したい。（事務局）
B-9	小玉部 会長	関係者の中に担当課の欄も設けるなどの工夫も必要である。 秋までのスケジュールについてについてはどのように考えるか。	□次回までに他の部会とも調整し、プロジェクトの紐づけ作業を行い、ストーリー化して主要プロジェクトすり合わせ等をしていく。 10月中に開催する	—

No.	発言者	意見内容	回答 ■事務局 □その他	対応方針
			予定である。(事務局)	
B-10	小玉部 会長	第7回以降は戦略プランとの関連で担当部課の施策の議論が中心になりがちだが、未来構想実現のもう一つの関係者である市民、関連各種団体・機関の役割や課題が見えにくくなっているように思う。これまで市で策定した各種基本指針(市民参加、文化振興、科学技術振興、グローバル化推進、その他)との関連や整合性についても、第9回以降の審議では十分検証しておく必要があると思う。 《会議開催後意見》	—	戦略プランは市の計画であると考えているため、市がどのように行動し、関係者へ働きかけると言う内容になると考えている。すでに策定済みの各種個別計画と整合をとれるように調整を図りたい。(事務局)

未来構想キャラバンの実施スケジュール

未来構想改定の中間とりまとめの内容を受け、令和元年（2019年）度に市民の方を対象として、つくば市から出向いて未来構想の説明と意見交換を行う「つくば市未来構想キャラバン」を実施する。未来構想等の改定について市民に周知するとともに、戦略プラン策定に関する意見収集を目的とする。

市民の認知度・理解度を上げるとともに、いつの間にか行政が策定していた計画となるのではなく市民と一体となって作る計画となるよう、平成30年（2018年）度を実施した市民ワークショップに引き続き、市民参加の新たな形として実施する。

1 未来構想キャラバンの実施概要

開催回	対象	募集方法	時期・会場
①中学生・高校生	つくば市に在住又は通学する中学生・高校生	広報紙、学校等を通じて周知	8/3（土） コミュニティ棟
②大学生	つくば市に在住又は通学する大学生	広報紙等を通じて周知、団体等に声かけ	9/30（月） 市内大学
③市民	つくば市に在住・在勤の方	広報紙等を通じて周知、団体等に声かけ	10/20（日） イーアスつくば
③'市民	つくば市に在住・在勤・在学の方	市HP、SNS等を通じて周知	9/30（月）～10/23（水） 電子（WEB）キャラバン
④企業	つくば市内企業に在勤の方	広報紙、メーリングリスト等を通じて周知、団体等へ声かけ	8/20（火） 産業振興センター
⑤研究機関	つくば市内研究機関に在住・在勤の方（筑協総会で説明・意見交換）	筑協広報等を通じて周知、団体等へ声かけ	6/18（火）理事会、 6/28（金）総会
⑤'研究機関	つくば市内企業に在勤の方	広報紙、メーリングリスト等を通じて周知、団体等へ声かけ	8/6（火） BiVi つくば2階交流サロン
⑥周辺地区子育て世代	周辺地区（研究学園都市建設以前からある市街地又は集落）に居住経験があり、子育て経験のある方	広報紙、メーリングリスト等を通じて周知、団体等へ声かけ	第1回 9/7（土） 谷田部交流センター 第2回 9/24（火） 子育て総合支援センター
⑦イベント等への出展	すくすく子育てフェスタに出展（SDGsブースと共同出展）	パネル等の展示及び意見箱の設置	6/8（土）、6/9（日） イーアスつくば

発行日：令和元年8月

編集・発行：つくば市 政策イノベーション部 企画経営課

◆市長と中学生がまちづくりを語る会が開催されました！

つくば市では、今後10年間の総合的な指針である未来構想の策定にあたり、市長と中学生の皆さんがまちづくりについて意見交換をする会を開催しました。

タウンミーティングと連携した夏休み特別企画として開催された今回は、中学生の皆さんから貴重な意見をたくさんいただいたのでご紹介します。

日時：令和元年8月3日（土）10:00～12:30

会議場所：つくば市役所 コミュニティ棟 1階

参加者：14名（事務局含まず）



◆主な意見交換内容

1. 市長から中学生への質問

市長から中学生の皆さんに「つくば市の魅力は？」、「学校は楽しい？」などの質問が投げかけられ、中学生の皆さんから市長に生の声が伝えられました。

(1) つくば市の魅力は？

- ・ 自然と都市が共存している。
- ・ 国際的な都市でいろいろな国にルーツのある人がいるところ。
- ・ 自然が豊かである。
- ・ 研究施設で一般公開などを行い、その取組を公表しているところ。
- ・ 筑波山から見える景色がよい。関東平野を一望できる。
- ・ 「サイエンスキャスティング」に参加し、研究所を回ったことがある。つくばはすごいと実感した。
- ・ 「ちびっこ博士」に参加してJAXAやつくばエキスポセンターを訪問するなど、子どもの頃から科学技術に親しむことができる。
- ・ 小学校から大学までそろっているが、高校が少ない。

(2) 普段の移動手段は？

- ・ 両親の送り迎えの車が多い。自転車、つくバスは少ない。
- ・ バスの運賃が高い。つくバスと関東鉄道のバスとの乗り換えの検索も不便。



(3) 学校は楽しい？（※各意見は、発言者の在籍校

（市立・県立・私立のいずれか）における授業を前提とした内容となっています）

① 授業は楽しい？

- ・ 学校は友達に会えるので楽しいが、授業はあまり面白くない。
- ・ 面白い授業は全体の3～4割。
- ・ 先生が一方向的に話す授業が多い。
- ・ 授業は単調で流れが一定なので驚きがない。
- ・ 授業の進め方が、板書をノートに写すことに偏っている。
- ・ 電子黒板は画面が切り替わるスピードが速く、ノートをとるのが大変。
- ・ ワークを配布して解かせる授業があるが、先生が先に答えを書いて写すだけになっている。



◆お問合せ◆ 〒305-8555 茨城県つくば市研究学園一丁目1番地1 TEL 029-883-1111

*タウンミーティングに関する質問・意見は、広聴室まで

*教育・学校（本MTにおける意見等）に関する質問・意見は、教育総務課まで

*未来構想に関する質問・意見は、政策イノベーション部企画経営課まで
各項目について、電話又は市HPよりご連絡ください。

1. 市長から中学生への質問（続き）

②どんな授業が楽しい？

- ・板書は行わず、先生から生徒に頻繁に質問がある。
- ・国語の授業のアートアクティブラーニングが楽しい。教科書を読んで、一節を取り出し、グループで議論し発表したりしている。
- ・GoogleのChromebookを使うなど、ITを活用した双方向的な授業が楽しい。
- ・集中する部分と冗談を交える部分の切り替えがある授業が面白い。
- ・教科書に載っていないことをスクリーンやプリントを使って教えてくれる先生もいる。自分次第でよりレベルアップした学びが可能である。
- ・iPadを使う理科の授業が楽しい。一方的な授業だと眠くなる。
- ・みんなで考えるアクティブラーニングが増えるとうい。



③自分が先生ならどんな授業をする？

- ・グループ活動があり、リズミカルにパワーポイントを使い、頭に入りやすくする。
- ・動画やゲーム感覚、班活動などを取り入れる。
- ・グループ活動で考えさせ、板書で理解させる。
- ・関係のない話や趣味の話をつなぎ、飽きさせないようにする。
- ・授業の構成が決まっていて、次にどうつながるかわかるようにする。
- ・教科書に書いてあることを教わって終わりのないで、自分で考えられる授業にしたい。

④どうしたら学校が楽しくなる？

- ・面白い行事を増やし、生徒で盛り上げる。
- ・自分たちで行事を企画したい。企画が成功したら評価されるとよい。
- ・雨が降ると、校舎や体育館、廊下などが雨漏りで水浸しになる。改善されるとよい。
- ・生徒と先生が信頼関係を築き、生徒が責任をもって自由にできるとよい。
- ・授業が面白くなくなると、学校が楽しくなくなる。
- ・生徒と先生で話し合って校則を決められるようになるとうい。

（※各意見は、発言者の在籍校（市立・県立・私立のいずれか）における授業を前提とした内容となっています）

(4) 人生の目的は？何のために生きている？

- ・子孫繁栄。日本全体にとってもよいこと。／自分の大切な人が幸せになること。

2. フリートーク

「学校の話が中心で話しやすかった」、「市長と話せてよい経験になった」、「他校の生徒の話聞いてよかった」などの感想とともに、中学生の皆さんから市長へ質問や意見をいただきました。また、いただいた意見に対し、市長から今後のつくばのまちづくりについてお話しいたしました。

中学生からの主な質問・意見

- ・市民が幸せになるため、どんなことに取り組むのか？
- ・車椅子を押すときに、周りの人が妨げになる時がある。周りを気にするようにしてほしい。
- ・自分らしく生きるとはどういうことか？自分のことがわからない。
- ・ITならではの特徴を活かした授業を工夫してほしい。
- ・みんなが挨拶できる市になってほしい。
- ・タウンミーティングのような催しが各市であると、全国で政治への意識が高まると思う。国民（市民）は政治について理解を深め、愚痴を言うだけでなく改善案を提言するなどの意識をもって発言すべき。
- ・家の近くの歩道に雑草が生えて通れないところがある。不審者が出たりもするので、きれいにしてほしい。
- ・自然が無くなると困るので、都市化をストップしてほしい。
- ・公園がもっとほしい。また、商業施設が閉店しないようにしてほしい。
- ・先生を敵とみなすような生徒はどうすべきか。
- ・つくば市の中高生で協力して、何かやりとげのような活動をやってみたい。自分たちで動くことも大事だと思う。
- ・都市化に伴い緑が減るのはいやだ。今日はつくば市の未来についてもっと話せるとよかった。

市長の回答・意見（一部）

- ・「誰一人取り残されない社会」を実現したい。科学技術で困っている人を救いたい。
- ・他の人の目線になり、他人に想いが向けられるまちにしていきたい。
- ・人生のことを考え、決断し、行動することではないか。自分で夢中になれることを見つけることが大切であり、親の期待に応えることではない。自分を知ることは、他人を知り、社会を知ることにつながる。



未来構想キャラバン つくば市長との意見交換会

研究所・
機関対象

発行日：令和元年8月

編集・発行：つくば市 政策イノベーション部 企画経営課

◆研究所・機関の皆さんと市長がまちづくりを語るキャラバンが開催されました！

つくば市では、今後10年間の総合的な指針である未来構想の策定にあたり、市長とつくば市在勤の研究所・機関にお勤めの皆さんが、まちづくりについて意見交換をするキャラバンを開催しました。

筑波研究学園都市を支える皆さんからの貴重な意見をご紹介します。

日時：令和元年8月6日（火）18:00～19:30

会議場所：B i V i つくば 2階交流サロン

参加者：11名（事務局含まず）



◆主な意見交換内容

1. 2030年のつくば市への期待について



研究所・機関の皆さんから2030年のつくば市にどのようなことを期待しているか伺いました。とくに情報を活用した技術発展について、ご意見を沢山いただきました。

(1) つくば市の雇用について

- 今のつくば市にいる子供たちが、大人になった時につくば市内に勤めることができるよう、雇用を増やせるまちになってほしい。
- 研究者同士のつながりを持てるよう、MBA的人材をつくば市で育成し、さらなる技術発展を目指したい。



(2) つくば市のモビリティについて

- モビリティの発展によって、子供から高齢者まで簡単に移動ができるようになってほしい。
- 今よりも公共交通の運賃を安くし、本数を増やしてほしい。
- マイカー依存をなくし、個人個人が新しいモビリティによって移動を楽しめるまちになってほしい。

(3) 情報を活用した技術の発展について

- 技術的なリスクのとらえ方によって、将来の技術発展が見込めると思う。
- つくば市は情報リテラシー（※情報を活用する能力）をお持ちの方が多いため、情報を扱うリスクをある程度受け入れてもらうことができると思う。
- つくば市で生活するうえで、情報の扱いについて理解してもらえそうな環境にしていきたい。



◆お問合せ◆つくば市役所 政策イノベーション部 企画経営課

〒305-8555 茨城県つくば市研究学園一丁目1番地1 TEL 029-883-1111/FAX 029-828-4708

*未来構想に関する質問・意見は、政策イノベーション部企画経営課のメールアドレス（pln010★city.tsukuba.lg.jp）まで（なお、メールアドレスの★は、@記号に置き換えて下さい）

2. フリートーク

つくば市の研究所・機関の皆さんから、今後のつくば市の取り組みについてご意見をいただきました。また、いただいた意見に対し、市長から今後のつくばのまちづくりについてお話しいたしました。

参加者からの意見

- 研究者とそれ以外の産業に従事している人との意見交換を実施してみたい。
- まちなかに物理的な核がなく、同業であっても顔が合わないような状況であるため、日常的に交流が生まれるまちになれば良いと思う。
- つくば市が科学技術によってシリコンバレーのようなまちになるために、起業しやすい仕組みづくりが必要になってくると思う。
- 現在つくば市は、車社会に合わせた街区のスケールが大きいまちであるが、ヒューマンスケールを意識したまちづくりが今後課題だと思う。
- 研究機関が集まっているメリットを活かした、市民参加型の研究開発を考えていきたい。
- 中心市街地に若い世代や外国の方が住めるような、盛り上がるような仕組みを作っていくとよいと思う。

市長からの回答・意見（一部）

- 産業の垣根を越えた自由な意見交換を実施したいと考えている。
- ベンチャー企業を応援し、社会のビジネスにつながっていきけるような拠点を作っていきたいと考えている。
- ベンチャー企業に対し融資を促す仕組みや、CEO人材の育成ができる、世界のスタートアップ拠点を積極的に検討したいと思う。

3. 振り返りシートのご意見

最後に、キャラバンに参加された皆さんに振り返りシートをご記入いただきました。「多様な意見が聞けた」「市長と話せてよかった」などのキャラバンの開催に対する前向きな感想とともに、今後のつくば市で取り組んでほしい事柄についてご意見をいただくことができました。

○：よかったと思うこと

- 多様な意見が聞けた。
- いろいろな課題を市長に提供して頂けて刺激になった。
- 市長と直接話すことができた。
- 五十嵐市長の強い思いというのがよく理解できた。
- 皆さん話がわかりやすくホットだった。楽しかった。
- 市長や他の人が考えていることを色々聞き、自分でも色々考える機会となりよかった。

△：よくなかったと思うこと

- 時間がもう少しあると良いように思った。
- 参加者全員が男性というのも気になった。
- 集まる対象が絞られていたため、研究者の考え方を聞く割合が多かった。
- もっと具体的に解決案、具体案を詰めていく。
- ターゲットが不明確だった。

□：十分に話せなかったこと

- 市の機能自体も実験場にするくらい、新しい試みをオープンに実施し発信してほしい。
- 研究成果についてつくば市を核に展開できる方策を議論できるとよかった。
- どうやってつくばの宝を活かして世界に名だたる福祉介護のまちにしていけることができるか、その具体的な取り組み。



☆：自由意見

- こういう場は継続的に人を入れ替えながら行えるといいと思った。人数もちょうどいいと思った。
- 公表された計画のその後が分からないことが多いので、立ち上がらなかった案件についても情報公開いただけた方が信頼関係を構築できるのではないかと思う。
- つくば駅付近に研究所のリエゾン担当が毎日集合できる場所をぜひ考えて頂けるとありがたい。（外から企業や投資家がそこにくれば話を聞けるというの大きなメリットではないかと思う。）
- クールで明晰な頭脳をホットなマインド・情熱をまちにいる人が持ち、世界に示していけるようなまちになるといいなと思った。等

未来構想キャラバン つくば市長との意見交換会

企業対象

発行日：令和元年8月

編集・発行：つくば市 政策イノベーション部 企画経営課

◆企業の皆さんと市長がまちづくりを語るキャラバンが開催されました！

つくば市では、今後10年間の総合的な指針である未来構想の策定にあたり、市長とつくば市内の企業の皆さんが、まちづくりについて意見交換をするキャラバンを開催しました。

企業の皆さんからの、貴重な意見をご紹介します

日時：令和元年8月20日（火）18:00～19:30

会議場所：つくば市産業振興センター

参加者：12名（事務局含まず）



◆主な意見交換内容

1. 現在のつくば市について、また今後の方向性について



つくば市内の企業の皆さんから、現在のつくば市について、また今後のつくば市の方向性についての意見を伺いました。

現在のつくば市についての意見

- **衰退していると思う点**：20年前に比べ研究機関に活気がなくなったように思う。当時、研究団地には企業がそろっていたが、今はだいぶ減ってきているイメージがある。
- **成長していると思う点**：他都市に比べて高所得者層が多い印象がある。特に研究学園駅周辺に賑わいを感じる。また、市内に生き生きした若者がたくさんいると感じる。
- **現状維持していると思う点**：市内には企業がたくさんあるが、研究所に紐づいた企業が多く、実際には収益をあげて社会に還元できていない印象がある。



今後のつくば市の方向性についての意見

- **成長して欲しいと思う点**：
 - つくば独自のポテンシャルがいかしきれていない。例えば企業が集積していない為、企業同士が切磋琢磨できる環境ができていない。つくばの立地を活かせる企業拠点がもっとあるとよい。
 - 東京一極集中のリスクを分散させる代替地として、本社を誘致できるポテンシャルが高いと思う。
 - 東京のベットタウンとしてだけでなく、つくばのポテンシャルを活かした企業（本社）が成長できるように検討する余地がある。
- **現状維持して欲しいと思う点**：
 - 自然が減少した。これ以上自然を壊して欲しくない。
 - 今のつくばでの生活に満足しているので、成長の方向性にもよるが、このまま維持して欲しい。



◆お問合せ◆つくば市役所 政策イノベーション部 企画経営課

〒305-8555 茨城県つくば市研究学園一丁目1番地1 TEL 029-883-1111/FAX 029-828-4708

*未来構想に関する質問・意見は、政策イノベーション部企画経営課のメールアドレス（pln010★city.tsukuba.lg.jp）まで（なお、メールアドレスの★は、@記号に置き換えて下さい）

2. フリートーク

「つくば市独自のポテンシャルを活用する」、「企業者にとって象徴的な場所になってほしい」、「イノベーションを創出できる場にしてほしい」など、企業の皆さんから意見をいただきました。また、いただいた意見に対し、市長から今後のつくばのまちづくりについてお話しいたしました。

参加者からの意見

- つくば市の強みを活かして課題解決につなげたい。コミュニティの中から新しいものが生まれると思うので、勉強会・共有体験ができる場を設けてほしい。
- 起業家にとって象徴的な場所になって欲しい。つくば市のブランディングという点で、チャレンジに寛容な雰囲気をつくるのが産業振興のカギとなっていくと思う。
- リノベーションを創出できる場、議論から生まれたアイデアを企業と市民と一緒に実証できる場、新しい技術が生活の中で実感できる場を設けてほしい。
- つくば独自のポテンシャルをまちのアピールにどのように活かしていくかを考えることも大事だと思う。
- つくば市のニーズに合った職業訓練（プログラミング等）の場があればいいと思う。
- つくば市だけでなく、周りの都市も含めて成長していくことが必要だと思う。

市長からの回答・意見（一部）

- 自由な雰囲気の中でつながっていくこともあると思っている。研究者との意見の場も含めいろいろな機会をつくっていききたい。
- 現在、つくば市の戦略の中でも「チャレンジ」を一つのキーワードにしている。
- まち全体が実証フィールドになることが必要だと思う。様々な問題解決のモデルをつくれるように、まち全体でいろいろなフィールドを提供していきたい。新しい技術が試せる場所にしていくことが、つくばのポテンシャルを活かすことであり、成長であると思っている。

3. 振り返りシートのご意見

最後に、キャラバンに参加された皆さんに振り返りシートをご記入いただきました。「多様な意見が聞けた」「市長と話せてよかった」などのキャラバンの開催に対する前向きな感想とともに、今後のつくば市で取り組んでほしい事柄についてご意見をいただくことができました。

○：よかったと思うこと

- 市長に久しぶりにお会いでき、ビジョンを聞くことができた。集まったメンバーと交流できた。
- つくば市のビジョンを知れて良かった。他の参加者も熱い思いを持っているとわかり安心した。
- 思った以上に参加者の意見が近いところがあったと思いました。それを知ることが出来たことは良かった。
- 色々な意見を聞くことができて面白かったです。市の取り組みについても市長から直接話が聞けて貴重な機会だった。

△：よくなかったと思うこと

- 話が分散して、ある程度収束してほしかった。

□：十分に話せなかったこと

- 具体的なアイデアについて。
- 産業振興策、特に中小企業支援について。例えば、経営革新の設備投資補助、産学連携の研究会補助など復活できれば。
- いろいろな話が聞けて良かった。もう少し企業としての立場で話が出来れば良かった。まちとしての話は、今後住んでから、気がついた事を話せればと思う。



- 未来へのビジョンについて市長の意見を聞いたかった。
- 街づくりの方向性について
- 優秀な海外人材を呼び込むことが、新産業の発展に必要と考えているが、その1ステップとして、数カ月～1年程度の期間、有給インターン的に迎えられよう環境整備を考えていただければありがたい。

☆：自由意見

- 新しい産業振興センターの今後に期待している。
- またこのような機会を頂けることを楽しみにしている。
- このように多様な意見を幅広く取り入れていこうとする姿勢はとても良いことだと思う。

未来構想キャラバン つくば市長との意見交換会

第1回
周辺地区
子育て世代

発行日：令和元年9月

編集・発行：つくば市 政策イノベーション部 企画経営課

◆子育て世代の皆さんと市長がまちづくりを語るキャラバンが開催されました！

つくば市では、今後10年間の総合的な指針である未来構想の策定にあたり、市長とつくば市内周辺地区にお住いの子育て世代の皆さんが、まちづくりについて意見交換をするキャラバンを開催しました。

子育て世代の皆さんからの、貴重な意見をご紹介します。

日時：令和元年9月7日（土）14:30～16:30

会議場所：つくば市谷田部交流センター

参加者：9名（事務局含まず）



◆主な意見交換内容

1. 子育てをされていて感じていることやどんな環境があるとよいか等について



つくば市内の子育て世代の皆さんから、子育てをされていて感じていることやどんな環境があるとよいか等を伺いました。

子育てについて大変だと思うこと・不安を感じていること

- 子供のいやいや期が大変だった。
- 実際に子育てをしてみて、自分が考えていたこととのギャップを感じた。どうしたら良いのか分からないことがたくさんある。
- 多子家庭なので手が回らない状況だった。また、親族が遠方に住んでいるため、サポートが得られにくい環境だった。子供が成長してからも、習い事等、週末含め送迎に忙しい状況である。
- 共働きで夫婦ともに都内勤務なので、子供が病気等をした際に、保育所の急な呼び出しに対応するのが難しい。また、災害発生時等どうしても対応できない時がある。いざという時に頼れる人、場所がないことに不安を感じている。



子育ての大変な時期をどうしたら乗り越えられると思うか？

- 親同士が互いの悩みを話し合う中で、解決することもある。このような機会の場（たまり場）を周辺地区にも作っていくことが必要だと思う。子供を中心とした場の中で、親同士が繋がりをもてるのが理想だと考えている。
- 周辺自治体含め、市の施設（支援センター等）は、市民以外は受け入れない施設もある。周辺地区は立地的にも他市との距離が近く、互いに交流もあるため、支援センターなどは繋がり場の場として拠点にもなり得る。市内の施設に限りがあるなか、周辺自治体との連携を強めて欲しい。選べる選択肢が複数あれば良いと思う。
- たまり場として、支援センター以外にも気軽（ふらっと）に立寄れる場所があれば良いと思う。



◆お問合せ◆つくば市役所 政策イノベーション部 企画経営課

〒305-8555 茨城県つくば市研究学園一丁目1番地1 TEL 029-883-1111/FAX 029-828-4708

*未来構想に関する質問・意見は、政策イノベーション部企画経営課のメールアドレス（pln010★city.tsukuba.lg.jp）まで（なお、メールアドレスの★は、@記号に置き換えて下さい）

2. フリートーク - つくば市に望むこと・期待すること -

子育て支援の環境や学校教育について、子育て世代の皆さんから意見をいただきました。また、いただいた意見に対し、市長から今後のつくばのまちづくりについてお話しいたしました。

参加者からの意見

- 男性の中には支援センター等、利用しづらい人も思う。気軽に立寄れる場所があれば良いと思う。
- 教育大綱について、親の状況によって子供に格差が生まれないような、人間性を伸ばせる教育の仕組みにしたい。
- 子供がひとりで遊びに行けない環境になっている。地域との繋がりをつくる機会も減りつつあり残念に思う。
- 地域住民全体で見守り、安心して子育てができるまちになって欲しい。理想としては子供達だけでも外で集まることができる環境になれば良いと思う。
- 保育料の無償化について、今ある幼児教育の多様性が失われないように考えてほしい。
- まちづくりにおいて必要なことは、ひとりひとりが当事者意識を持つことだと思う。たまり場についても、主体者としてかかわれる仕組みを考えていく必要があると思う。
- 保育園・幼稚園等、さまざまな子育ての選択があるが、ひとりひとりの課題に寄りそっていくことが大切と思う。

市長からの回答・意見（一部）

- ひとりで気軽に立寄れる場所に対するニーズは高いと実感している。今後、検討していきたい。
- 産業の為の人材（グローバル人材等）育成の枠にとらわれない、ひとりひとりに合った子供の為の教育に変えていきたいと考えている。
- 保育料の無料化に関連して、様々な歪が生じている状況。保育需要の増加に対する保育士不足等、課題解決に向けて取り組んでいきたい。
- 「社会をつくる」という当事者意識が良い変化をもたらすと思う。教育大綱においても社会力について言及しているが、大人も含めて社会力のあるまちを目指していきたい。
- さまざまな子育ての選択肢を持てることが大切だと考えている。その為に、公立施設が担うべき役割を改めて考えていきたい。

3. 振り返りシートのご意見

最後に、キャラバンに参加された皆さんに振り返りシートをご記入いただきました。「多様な意見が聞けた」「市長と話せてよかった」などのキャラバンの開催に対する前向きな感想とともに、今後のつくば市で取り組んでほしい事柄についてご意見をいただくことができました。

○：よかったと思うこと

- 色々な地区、立場の方が来ていたのでそれぞれの経験、考えが聞けて面白かった。市の取組の現状も知れて良かった。
- 市長と直接話せるのは貴重だった。
- ひとりひとりのお話をきちんと聞いてくれる感じが伝わり嬉しく思った。志のある人、自分と同じ問題意識（居場所・つながり・利用者意識の増大）を持っている人がたくさんいることがわかり良かった。
- 少人数で皆さんのお話を十分に聞いて本当に良かった。自分が主体で小さなことでも動いてみようと思えた。主婦でもフルタイム勤務でも地域のためにできることがありそうだと感じた。
- つくば市の未来のことについて考えられる機会になって良かった。いろいろな方の意見も考えるきっかけになり良かった。

△：よくなかったと思うこと

- 若干時間は少なかった。

□：十分に話せなかったこと

- 牛久市の奥野小学校のような周辺地区の学校に行けるような制度があると、小学校の人口が分散するのではないだろうか？
- 自転車で夜間も移動できるつくばについて。



- 吉沼地区は古い地区なので通学路の車との幅がとても狭くて怖い。

☆：自由意見

- 今後も継続して頑張ってもらいたいと思います。方向性には賛同させてもらいたい。
- 子育て世代の社会とのつながりが大切だと感じたので、自分も含めて少しでもできることをやりたい。
- 個人でも、働くママサポートで一時預かりをしたり“ままとーん”に携わったりしていますが、未就学児が集まるとそれはもう大変である。1つの仕事にならないまでも、良いことを続けていけるような仕組みやネットワークづくりが必要かと思う。

発行日：令和元年9月

編集・発行：つくば市 政策イノベーション部 企画経営課

◆子育て世代の皆さんと市長がまちづくりを語るキャラバンが開催されました！

つくば市では、今後10年間の総合的な指針である未来構想の策定にあたり、市長とつくば市内周辺地区にお住まいの子育て世代の皆さんが、まちづくりについて意見交換をするキャラバンを開催しました。

子育て世代の皆さんからの、貴重な意見をご紹介します。

日時：令和元年9月24日（火）15:00～16:30

会議場所：子育て支援センター

参加者：12名（事務局含まず）



◆主な意見交換内容

1. 子育てをされていて感じていることや子育ての地域差について



つくば市内の子育て世代の皆さんから、子育てをされていて感じていることやつくば市内の子育ての地域差について伺いました。

子育てについて普段から感じていること・問題点

- 周辺地区の子ども達には、放課後に集まれる「たまり場」が少ない為、思うように遊ぶことができていないのではないかと感じている。
- 子ども達の「たまり場」として、学童以外に複数の選択肢があると良い。
- 産後の女性は社会から隔離され、孤立感に苦しむことが多い。人と繋がり難い環境も、子育てのしづらさに結びついているのではないかと感じている。子育て支援施設等への動線の見直しを含め、公共交通（つくバス等）の利便性が改善されると、交流の機会が増えると思う。
- 車を持っていなくても子育てしやすい環境を整えてほしい。
- 以前に比べて、産後サポート（産褥ヘルプ含め）が充実してきているが、改善が必要な点（サポート期間等）もある。見守る仕組みがあるだけでも安心できると思う。



中心地区と周辺地区の違いについてどう感じているか？

- 中心地区と周辺地区では文化の違いがあると思う。例えば、教育に対する考え方にも隔たりがあることを感じている。
- 各地域コミュニティの性質の違いからくる戸惑いも多い。コンパクトシティの考え方は周辺地区の制度と合わないことも多くある。周辺地区の特色を活かした新しい仕組みを考えて欲しい。
- 周辺地区に引っ越しても、地域のコミュニティが形成されており、入りにくい。コミュニティ形成のきっかけにもなる「たまり場」があると良いと思う。「たまり場」はふらっと立寄れる場所にあるのが理想で、私有地（空き地）にはその可能性があるのではないかと感じている。



◆お問合せ◆つくば市役所 政策イノベーション部 企画経営課

〒305-8555 茨城県つくば市研究学園一丁目1番地1 TEL 029-883-1111 / FAX 029-828-4708

*未来構想に関する質問・意見は、政策イノベーション部企画経営課のメールアドレス（pln010★city.tsukuba.lg.jp）まで（なお、メールアドレスの★は、@記号に置き換えて下さい）

2. フリートーク - つくば市に望むこと・期待すること -

子育て支援の環境や学校教育について、子育て世代の皆さんから意見をいただきました。また、いただいた意見に対し、市長から今後のつくばのまちづくりについてお話しいたしました。

参加者からの意見

- 学校教員の待遇改善についてはどのように考えているのか。児童数に比べ、教員が不足している。少人数学級等、教員にゆとりを持たせることが必要ではないか。
- 学校のルールづくりについて、子供達が主体的に関われる環境になれば良いと思う。
- 空き地（私有地）について、公園等のたまり場づくりに活用できないか。私有地のまま地域に開放できれば良い。
- 商業施設等の生活に密着している施設内にたまり場（支援センター等）をつくることで、気軽に集い、繋がりをもつことができるのではないか。
- 放課後の子供達のたまり場は必須だが、現在の方針（寄道禁止）では活用するのは難しい。仕組みを見直す必要がある。

市長からの回答・意見（一部）

- 教師の働き方改革を段階的に進めており、10月頃には改革案を公表する予定である。
- 教育大綱において、管理から自己決定への転換について言及している。子供が主体的に動ける環境に変えていく必要があると思う。
- 空き地の利用について、地域が主体となって運営できる仕組みを考えていく必要がある。
- 子育て拠点と商業施設が共存できる仕組みを考えていく必要があると思う。
- 子供の見守りについて、学校のみならず保護者・地域・行政がそれぞれできることを考える必要があると思う。

3. 振り返りシートのご意見

最後に、キャラバンに参加された皆さんに振り返りシートをご記入いただきました。「多様な意見が聞けた」「市長と話せてよかった」などのキャラバンの開催に対する前向きな感想とともに、今後のつくば市で取り組んでほしい事柄についてご意見をいただくことができました。

○：よかったと思うこと

- 市長から詳しく未来構想を伺えたこと。様々な立場の方のご意見を聴けたことで、つくば市での問題点やこれからの可能性や方向性について考えていくことができた。
- 周辺地区について、市長が様々な対策をしてくださっていることが伝わってきた。また、他の方の意見を聴くことができる貴重な時間だった。
- すごく面白かった。市長に直接伝えられるので、このような場が本当に大切だと思った。

△：よくなかったと思うこと

- 時間が足りなかったことが残念。
- 話題が広すぎてテーマに関する意見交換が足りないように感じた。
- 市長と市民という形よりも、担当課職員・市長・市民が平場でディスカッションするような形式にする方が、議論は深まったのではないか。

□：十分に話せなかったこと

- 各地域に繋がりやすい拠点が、活用・行きやすくなると良いと思う。中心地区、つくば市役所等で子育てを支援するイベントがあると、たくさんの方が交流できる場になるのではないか。また、社会全体で子育てを支援していくことも大事で、ぜひ環境を整えて頂けたらと思う。
- プレイパークについて。子供にとっての最善の形になることを望んでいる。
- 中心地区と周辺地区での子育ての違い等にも注目してみると面白いと思う。高校についても今後のテーマに良いと思う。



- 子育て拠点になりうる商業施設のあり方。
- 待機児童問題について。子育てに夢中になる環境、仕事に復帰しやすい環境、仕組みがあると良い。
- 自治会のあり方について。

☆：自由意見

- 育休が取得しやすく、復帰後のキャリアにも影響しないことは、安心してつくばに暮らし、子育てできる環境として重要であり、期待している。
- つくば市は広すぎるために施設が遠くになりがちで、特に子供が通う場所は、通いやすい場所を確保して頂けると助かる。
- 転入者でも、市の様々な立場の方の意見が気軽に聴ける場があって良かった。
- 学校帰りの時間を子供に取り戻させるための拠点づくり（人員育成）と制度的な阻害要因の洗い出しをして欲しい。
- 廃校を活用し、オルタナティブスクールを設置（又は支援）し、子どもたち一人ひとりにあった教育の実施や不登校児の受け皿を目指してはどうか。

【以下の資料は継続審議のため非公開です。】

資料1 未来構想・戦略プランの全体構成（案）

資料2 基本施策・個別施策のストーリー化

資料3 つくば市戦略プランの骨子（案）と基本施策と個別施策